

魚介類の分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内> (γ)

(1/6)

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目		
			Cs-134 (Bq/kg(生))	Cs-137 (Bq/kg(生))	Cs合計 (Bq/kg(生))
太田川沖合1km付近(T-S1)	ガザミ(全体)	2022/9/30	< 3.8E+00	< 4.3E+00	ND
太田川沖合1km付近(T-S1)	二ベ(筋肉)	2022/9/30	< 3.4E+00	< 3.9E+00	ND
太田川沖合1km付近(T-S1)	ヒラメ(筋肉)No.1	2022/9/30	< 3.8E+00	< 3.8E+00	ND
太田川沖合1km付近(T-S1)	ヒラメ(筋肉)No.2	2022/9/30	< 5.8E+00	< 5.6E+00	ND
小高区沖合3 km付近(T-S2)	カスザメ(筋肉)	2022/9/30	< 3.8E+00	< 3.2E+00	ND
小高区沖合3 km付近(T-S2)	ガザミ(全体)	2022/9/30	< 3.5E+00	< 3.5E+00	ND
小高区沖合3 km付近(T-S2)	ヒラメ(筋肉)No.1	2022/9/30	< 6.7E+00	< 4.9E+00	ND
請戸川沖合3 km付近(T-S3)	カスザメ(筋肉)	2022/9/7	< 3.7E+00	< 3.6E+00	ND
請戸川沖合3 km付近(T-S3)	コモンカスベ(筋肉)	2022/9/7	< 4.1E+00	< 3.5E+00	ND
請戸川沖合3 km付近(T-S3)	ヒラメ(筋肉)No.1	2022/9/7	< 5.1E+00	< 5.4E+00	ND

- ・核種毎の半減期：Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)
- ・不等号(<:小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。
- ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
- ・分析機関：東京パワーテクノロジー(株)
- ・ $\text{〇.〇E}\pm\text{〇}$ とは、 $\text{〇.〇}\times 10^{\pm\text{〇}}$ であることを意味する。
 (例) $3.1\text{E}+01$ は 3.1×10^1 で31, $3.1\text{E}+00$ は 3.1×10^0 で3.1, $3.1\text{E}-01$ は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

魚介類の分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内> (γ)

(2/6)

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目		
			Cs-134 (Bq/kg(生))	Cs-137 (Bq/kg(生))	Cs合計 (Bq/kg(生))
請戸川沖合3km付近(T-S3)	ホウボウ(筋肉)	2022/9/7	< 3.9E+00	< 3.5E+00	ND
請戸川沖合3km付近(T-S3)	マトウダイ(筋肉)	2022/9/7	< 4.2E+00	< 3.5E+00	ND
1F敷地沖合3km付近(T-S4)	ガザミ(全体)	2022/9/7	< 3.1E+00	< 3.5E+00	ND
1F敷地沖合3km付近(T-S4)	ホウボウ(筋肉)	2022/9/7	< 4.4E+00	< 3.6E+00	ND
木戸川沖合2km付近(T-S5)	カスザメ(筋肉)	2022/9/15	< 2.9E+00	< 4.6E+00	ND
木戸川沖合2km付近(T-S5)	コモンカスベ(筋肉)	2022/9/15	< 3.3E+00	< 3.0E+00	ND
木戸川沖合2km付近(T-S5)	ヒラメ(筋肉)No.1	2022/9/15	< 3.8E+00	< 3.8E+00	ND
木戸川沖合2km付近(T-S5)	ヒラメ(筋肉)No.2	2022/9/15	< 5.3E+00	< 5.6E+00	ND
木戸川沖合2km付近(T-S5)	ホウボウ(筋肉)	2022/9/15	< 3.0E+00	< 3.3E+00	ND
木戸川沖合2km付近(T-S5)	マダイ(筋肉)	2022/9/15	< 3.6E+00	< 3.7E+00	ND

- ・核種毎の半減期：Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)
- ・不等号(<:小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。
- ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
- ・分析機関：東京パワーテクノロジー(株)
- ・ $\text{〇.〇E}\pm\text{〇}$ とは、 $\text{〇.〇}\times 10^{\pm\text{〇}}$ であることを意味する。
(例) 3.1E+01は 3.1×10^1 で31, 3.1E+00は 3.1×10^0 で3.1, 3.1E-01は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

魚介類の分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内> (γ)

(3/6)

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目		
			Cs-134 (Bq/kg(生))	Cs-137 (Bq/kg(生))	Cs合計 (Bq/kg(生))
2F敷地沖合2km付近(T-S7)	コモンカスベ(筋肉)	2022/9/15	< 3.5E+00	< 4.1E+00	ND
2F敷地沖合2km付近(T-S7)	二ベ(筋肉)	2022/9/15	< 3.9E+00	< 3.9E+00	ND
2F敷地沖合2km付近(T-S7)	ヒラメ(筋肉)No.1	2022/9/15	< 3.6E+00	< 3.1E+00	ND
2F敷地沖合2km付近(T-S7)	ヒラメ(筋肉)No.2	2022/9/15	< 3.6E+00	< 2.9E+00	ND
2F敷地沖合2km付近(T-S7)	ホウボウ(筋肉)	2022/9/15	< 3.5E+00	< 2.8E+00	ND
熊川沖合4km付近(T-S8)	ガザミ(全体)	2022/9/13	< 2.7E+00	< 3.5E+00	ND
熊川沖合4km付近(T-S8)	クロソイ(筋肉)	2022/9/13	< 3.5E+00	< 3.2E+00	ND
熊川沖合4km付近(T-S8)	コモンカスベ(筋肉)	2022/9/13	< 4.2E+00	< 3.9E+00	ND
熊川沖合4km付近(T-S8)	二ベ(筋肉)	2022/9/13	< 3.6E+00	< 3.3E+00	ND
熊川沖合4km付近(T-S8)	ヒラメ(筋肉)No.1	2022/9/13	< 3.8E+00	< 3.6E+00	ND

- ・核種毎の半減期：Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)
- ・不等号(<:小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。
- ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
- ・分析機関：東京パワーテクノロジー(株)
- ・ $0.0E \pm 0$ とは、 $0.0 \times 10^{\pm 0}$ であることを意味する。
(例) $3.1E+01$ は 3.1×10^1 で31, $3.1E+00$ は 3.1×10^0 で3.1, $3.1E-01$ は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

魚介類の分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内> (γ)

(4/6)

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目		
			Cs-134 (Bq/kg(生))	Cs-137 (Bq/kg(生))	Cs合計 (Bq/kg(生))
熊川沖合4 km付近(T-S8)	ヒラメ(筋肉)No.2	2022/9/13	< 4.7E+00	< 3.7E+00	ND
熊川沖合4 km付近(T-S8)	ホウボウ(筋肉)	2022/9/13	< 3.7E+00	< 3.1E+00	ND
熊川沖合4 km付近(T-S8)	マダイ(筋肉)	2022/9/13	< 3.1E+00	< 2.9E+00	ND
小高区沖合1.5 km付近(T-B1)	カナガシラ(筋肉)	2022/9/13	< 3.7E+00	< 3.2E+00	ND
小高区沖合1.5 km付近(T-B1)	コモンカスベ(筋肉)	2022/9/13	< 3.3E+00	< 3.7E+00	ND
小高区沖合1.5 km付近(T-B1)	シヨウサイフグ(筋肉)	2022/9/13	< 3.7E+00	< 3.3E+00	ND
小高区沖合1.5 km付近(T-B1)	マコガレイ(筋肉)	2022/9/13	< 3.2E+00	< 3.4E+00	ND
小高区沖合1.5 km付近(T-B1)	マトウダイ(筋肉)	2022/9/13	< 4.2E+00	< 3.8E+00	ND
小高区沖合1.5 km付近(T-B1)	ムシガレイ(筋肉)	2022/9/13	< 4.3E+00	< 3.6E+00	ND
請戸川沖合1.8 km付近(T-B2)	カガミダイ(筋肉)	2022/9/13	< 3.5E+00	< 4.3E+00	ND

- ・核種毎の半減期：Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)
- ・不等号(<)は、検出限界値未満(ND)を表す。
- ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
- ・分析機関：東京パワーテクノロジー(株)
- ・ $0.0E \pm 0$ とは、 $0.0 \times 10^{\pm 0}$ であることを意味する。
(例) $3.1E+01$ は 3.1×10^1 で31, $3.1E+00$ は 3.1×10^0 で3.1, $3.1E-01$ は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

魚介類の分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内> (γ)

(5/6)

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目		
			Cs-134 (Bq/kg(生))	Cs-137 (Bq/kg(生))	Cs合計 (Bq/kg(生))
請戸川沖合18km付近(T-B2)	カナガシラ(筋肉)	2022/9/13	< 3.6E+00	< 4.1E+00	ND
請戸川沖合18km付近(T-B2)	チダイ(筋肉)	2022/9/13	< 3.3E+00	< 3.3E+00	ND
請戸川沖合18km付近(T-B2)	マアジ(筋肉)	2022/9/13	< 3.2E+00	< 3.4E+00	ND
請戸川沖合18km付近(T-B2)	ムシガレイ(筋肉)	2022/9/13	< 3.7E+00	< 3.5E+00	ND
1F敷地沖合10km付近(T-B3)	カナガシラ(筋肉)	2022/9/27	< 3.6E+00	< 3.7E+00	ND
1F敷地沖合10km付近(T-B3)	コモンカスベ(筋肉)	2022/9/27	< 3.4E+00	< 3.8E+00	ND
1F敷地沖合10km付近(T-B3)	シウサイフグ(筋肉)	2022/9/27	< 3.3E+00	< 4.2E+00	ND
1F敷地沖合10km付近(T-B3)	チダイ(筋肉)	2022/9/27	< 3.8E+00	< 4.3E+00	ND
1F敷地沖合10km付近(T-B3)	ハウボウ(筋肉)	2022/9/27	< 3.4E+00	< 3.6E+00	ND
1F敷地沖合10km付近(T-B3)	ホシザメ(筋肉)	2022/9/27	< 3.2E+00	< 4.0E+00	ND

- ・核種毎の半減期：Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)
- ・不等号(<:小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。
- ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
- ・分析機関：東京パワーテクノロジー(株)
- ・ $\text{〇.〇E}\pm\text{〇}$ とは、 $\text{〇.〇}\times 10^{\pm\text{〇}}$ であることを意味する。
(例) 3.1E+01は 3.1×10^1 で31, 3.1E+00は 3.1×10^0 で3.1, 3.1E-01は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

魚介類の分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内>(γ)

(6/6)

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目		
			Cs-134 (Bq/kg(生))	Cs-137 (Bq/kg(生))	Cs合計 (Bq/kg(生))
1 F 敷地沖合10 km付近(T-B3)	マダイ(筋肉)	2022/9/27	< 3.3E+00	< 3.1E+00	ND
1 F 敷地沖合10 km付近(T-B3)	マトウダイ(筋肉)	2022/9/27	< 4.1E+00	< 3.8E+00	ND
2 F 敷地沖合10 km付近(T-B4)	カナガシラ(筋肉)	2022/9/27	< 3.4E+00	< 3.1E+00	ND
2 F 敷地沖合10 km付近(T-B4)	チダイ(筋肉)	2022/9/27	< 2.8E+00	< 3.9E+00	ND
2 F 敷地沖合10 km付近(T-B4)	ホシザメ(筋肉)	2022/9/27	< 3.3E+00	< 3.2E+00	ND
2 F 敷地沖合10 km付近(T-B4)	マコガレイ(筋肉)	2022/9/27	< 3.7E+00	< 3.7E+00	ND
2 F 敷地沖合10 km付近(T-B4)	マダイ(筋肉)	2022/9/27	< 3.3E+00	< 3.0E+00	ND
2 F 敷地沖合10 km付近(T-B4)	マトウダイ(筋肉)	2022/9/27	< 4.0E+00	< 3.8E+00	ND

- ・核種毎の半減期：Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)
- ・不等号(<:小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。
- ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
- ・分析機関：東京パワーテクノロジー(株)
- ・ $〇.〇E\pm〇$ とは、 $〇.〇\times 10^{\pm〇}$ であることを意味する。
(例) 3.1E+01は 3.1×10^1 で31, 3.1E+00は 3.1×10^0 で3.1, 3.1E-01は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

魚介類分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内> (H-3)

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目				参考 Cs合計 (Bq/kg(生))	試料名	採取日	H-3 (Bq/L)
			H-3(Bq/L)		H-3(Bq/kg(生))					
			組織自由水型	有機結合同型	組織自由水型	有機結合同型				
熊川沖合4km付近 (T-S8) ^{*1}	ヒラメ(筋肉)	2022/7/14	8.5E-02	< 2.8E-01	6.6E-02	< 4.2E-02	ND	海水	2022/7/13	8.1E-02
								WHOの飲料水水質ガイドライン ^{*2}	1.0E+04	

・海水の採取深度は表層
 ・核種毎の半減期：H-3(約12年), Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)
 ・不等号(<:小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。
 ・測定対象外および採取中止の項目は「-」と記す。
 ・○.○E±○とは、○.○×10^{±○}であることを意味する。
 (例) 3.1E+01は3.1×10¹で31, 3.1E+00は3.1×10⁰で3.1, 3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。
 ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134, Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
 ・組織自由水型トリチウムとは、動物の組織内に水の状態が存在し、水と同じように組織外へ排出されるトリチウム。
 有機結合同型トリチウムとは、動物の組織内のタンパク質などに有機的に結合して組織内に取り込まれ、細胞の代謝により組織外へ排出されるトリチウム。
^{*1} 分析機関：(一財)九州環境管理協会
^{*2} WHOの飲料水水質ガイドラインにおける、H-3の指標
 ・分析結果の評価については「福島第一原子力発電所の状況について(日報)」を参照 <https://www.tepco.co.jp/press/report/>
 *モニタリング強化で追加した地点については測定データ確認中。